

2017
No.85

[2017年6月~7月号]

青山学院大学

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷4-4-25

<http://www.aoyama.ac.jp/>

AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS



特集

2016年度 学生表彰 & 体育会優秀団体・選手表彰

Topics

国際センターを設立します

AGU Lecture

教育人間科学部 教育学科

「子どもや若者の学び、人間関係、成長について現実に基づき考える」

教育人間科学部 教育学科 大塚ゼミ

2016年度 学生表彰

2016年度に学問分野において活躍した学生の受賞者が発表されました。
 受賞者はいずれも多様な分野において優秀な結果を残したことが評価され、受賞につながりました。
 受賞者を代表し、小灘拓矢さん、坂寄妃奈子さんと田島ジョセフ勇氣さんに受賞の感想や今後の抱負を聞きました。

他チームと異なる手法で臨み、接戦を制す

●第10回 GPS・QZSSロボットカーコンテスト 優勝
 (一般社団法人 測位航法学会主催)

小灘 拓矢さん | 理工学部 物理・数理学科物理科学コース2年
 東京都立南多摩高等学校出身

課外活動において学生表彰を受賞することができ、とてもありがたく思います。私が所属する「MebiAsエンジニアリング愛好会」の顧問で、推薦して下さった三井教授のおかげでもあります。「GPS・QZSSロボットカーコンテスト」はGPSから位置情報を測位し、自律走行するロボットカーで決められた2点を8の字に周回し、時間内の周回数を競います。私がこの大会で力を入れた部分は、高い測位力を持つ他のチームより、格段に高速な走行をする機体製作と、それを実現するためのアルゴリズムです。これらは他のチームとは異なる方法であり、優勝につながったポイントだ



と思います。当日は、機体内部に2台搭載している計算機に通信障害が発生し、1回目の走行では点を取れませんでした。しかし、諦めずに問題を解決したことで2回目の走行で高い点を取ることができました。ハードウェアとソフトウェアの両方の優位性が求められるコンテストで優勝できたことは大変嬉しいですし、3チームが同点で準優勝という状況の中、非常に僅差での優勝だったので、喜びもひとしおです。他のチームとは異なるコンセプトで臨み、勝利したことも自信になりました。

今後は物理学とプログラミングの知識をさらに身に付けたいと思います。また、2017年の同コンテストにおいても、さらに測位の精度を向上させ、高得点が狙えるよう改善していく予定です。また、別のロボット大会でも良い成績が残せるよう努力していきたいです。



コンテストで優勝したロボットカー「Coyote」

英語力、発想力に加え、人を引き付けるプレゼンテーションで受賞

●第5回 全国学生英語プレゼンテーションコンテスト グループの部 優秀賞
 (神田外語グループ 読売新聞社主催)

国際政治経済学部 国際政治学科3年
 坂寄 妃奈子さん | 東京・私立清泉女学院高等学校出身
 田島 ジョセフ勇氣さん | 東京都立杉並総合高等学校出身
 ともに山影進教授ゼミナール所属

「全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」は英語表現力、論理的思考力、プレゼンテーション能力を向上させることなどを目的としています。選択テーマ「海外向けにひと工夫!製品アイデアを売り込め」に沿って、英文原稿を作成し、プレゼンテーションを行いました。お2人は優れた英語力や、日本の風呂敷を海外向けにアレンジする発想力など、人を引き付ける工夫が凝らされていたことが高く評価されました。



坂寄さん: 受賞に際し、とても喜ばしく、パートナーを組んだ田島さんと周囲の方への感謝の気持ちでいっぱいです。今回、日本の伝統である風呂敷の良さをアピールするため、風呂敷を使った買い物袋「WRAPPI(ラッピー)」を、アメリカで売り出すことを提案しました。英語でのプレゼンテーションでは、英語の楽しさ、風呂敷の良さを伝えることを大切にし、会場の皆さんを飽

きさせないようにジョークも交えるなど、さまざまな工夫を凝らしました。本番では会場中が笑いと拍手に満ちあふれたので、とても嬉しかったです。

私は人を笑顔にすることが好きです。今後は、日本の素晴らしい商品やサービス、そして文化をもっと全世界に発信し、幸せや笑顔、平和の大切さを広めていきたいです。

田島さん: 受賞は大変嬉しく今後の励みになり、ゼミの山影先生をはじめ関係者の皆さまに対して、感謝の念に堪えません。企画・準備では坂寄さんと協力し、互いの意見をブラッシュアップし、より良いものができ上がりました。英語力のみならず、情報発信力、論理的思考力、チームワークなど、総合的な能力が試され、プレゼンテーションでは会場の皆さんを引き込むための工夫が必要でした。その中でも私はプレゼンテーションの原稿制作に力を入れ、説得力のある内容に仕上げました。

コンテストでの優秀賞と学生表彰受賞、共に名誉ある評価をいただいたので、この経験を糧に卒業後は社会に貢献していきたいと思っています。



「平成28年度刑事政策に関する懸賞論文」で吉松美帆子さんが優秀賞、遠藤モナミさんが佳作を受賞



左から遠藤さん、吉松さん、お2人の論文を指導した安部祥太法学部助教

「平成28年度刑事政策に関する懸賞論文」で吉松美帆子さん(法学部法学科2年)が優秀賞、遠藤モナミさん(法学部法学科2年)が佳作を受賞し、2017年1月18日(水)東京都千代田区の法曹会館で表彰式が行われました。

同懸賞論文は一般財団法人日本刑事政策研究会と読売新聞社が行っているもので、大学生または大学院生を対象に、毎年、刑事政策に関するテーマを決め募集されています。2016年度のテーマは「青少年による薬物使用を防止するための対策」でした。

優秀賞を受賞した吉松さんの論文タイトルは「里親型ホームステイプログラムによる青少年の薬物再使用防止」。青少年の薬物再使用防止に焦点を当て、社会が彼らの支え手となり、社会復帰を支援し、実家以外の家庭で社会復帰を果たす「里親型ホームステイプログラム」を提案しました。

佳作を受賞した遠藤さんの論文タイトルは「ICT活用と教員研修義務化による小学校への全国統一薬物乱用防止教育制度の導入」。青少年の薬物使用を未然に防止することが重要で、現在、中学生・高校生が中心である薬物乱用防止教育を、小学5年生・6年生に対して行うことを提案。薬物乱用への道をたどってしまうという設定のシミュレーションゲームアプリの開発、教員の薬物に関する知識や、生徒への指導方法等も含め研修を行うことを提案しました。お2人に受賞の感想や今後の抱負を聞きました。

吉松 美帆子さん | 法学部 法学科2年
 東京・私立共立女子第二高等学校出身

論文を書いたのが初めてだったので、優秀賞をいただけて、嬉しさと驚きでいっぱいです。1年次にオーストラリアへ短期留学し、実家ではない家庭に身を置いたことで、新しい価値観などに触れることの大切さを感じたこと、また日本で少年院を見学したことがきっかけでこのテーマを選びました。論文ではアイデアに説得力を持たせる過程が一番大変でした。少年院出所後の受け入れ先の確保についての問題は分からないことが多く、途中で投げ出したくなりました。しかし、安部先生のアドバイスや法務省の更生保護の取り組みに関するウェブサイト『おかえり』などが参考になり、やり遂げることができました。今後はアイデア先行ではなく、論理立てて文章作成やゼミでのディベートでも発言ができればと思います。

遠藤 モナミさん | 法学部 法学科2年
 高等学校卒業程度認定試験合格

このような賞をいただけたことは大変光栄で、素直に嬉しいです。日本における薬物乱用防止教育は、主に中学・高校で行われています。しかし、この年代の子どもたちは心身に複雑な成長期のため、もっと早い段階で教育を行うべきだと考えました。論文作成では多くの文献を読み調べることや、引用表記の方法に苦勞し、相手に伝わる文章を書くことの難しさも痛感しました。また、この論文以外でも、どうすれば自分の考えを、相手により分かりやすく伝えることができるのかを考え、意識するようになりました。論文指導をお願いした安部先生のゼミで、これから本格的に刑事訴訟法や刑事政策を学びます。今回の経験を糧に、積極的に知識を吸収していきたいです。

指導教員・安部祥太法学部助教より

「形式面や論理、おかしい点は指摘するが、内容や方向性は口出ししない」という方針で指導しました。自由な発想で自ら執筆し受賞したことは、貴重な経験でしょう。お2人は、今後2年間私のゼミで学びます。他のゼミ生と共にますます活躍してくれることでしょう。



2016年度 体育会優秀団体・選手表彰

体育会優秀団体・選手表彰では、2016年度にスポーツ分野において活躍または業績を上げた学生、団体が表彰されました。受賞者を代表し、最優秀団体に選ばれた空手道部の主務・大矢真未さんと、優秀選手に選ばれた江瀨まことさんに受賞の感想や今後の抱負について聞きました。

鍛え上げた心身と強い団結力でつんだ日本一

最優秀団体 空手道部

- 内閣総理大臣杯 第59回全国空手道選手権大会 女子団体組手の部 優勝、男子団体形の部 準優勝、女子団体形の部 準優勝
- 平成28年度 秋季関東学生会定期リーグ戦 女子団体 優勝

大矢 真未さん 経済学部 経済学科3年 (主務) 東京・私立日本大学鶴ヶ丘高等学校出身



空手道部を最優秀団体に選んでいただき誠に光栄です。部活動を通じて本学に少しでも貢献できたことを嬉しく思います。

2016年度は4年生を中心に、日々の練習や合宿を通してさらなる団結力を深められた1年でした。「第59回全国空手道選手権大会」では男女とも団体形の部で準優勝、「平成28年度秋季関東学生会定期リーグ戦」では女子団体が優勝と、結果も残すことができました。中でも一番印象に残っているのは、「第59回全国空手道選手権大会」の女子団体組手の部で優勝したこと。優勝が決まった瞬間、感動で胸がいっぱいになったこ

日本代表と学業を両立させW杯本選へ

優秀選手

- 女子ラグビーワールドカップ2017 アイルランド大会 アジア・オセアニア予選 出場(1位通過)

江瀨 まことさん 地球社会共生学部 地球社会共生学科1年 福岡県立福岡高等学校出身



右から2番目が江瀨さん

優秀選手に選ばれて、とても嬉しく思います。本学ラグビー部で男子部員と共に練習できる環境があつてこそこの受賞だと思うので、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

12月に出場した女子ラグビーワールドカップ予選は初の国際大会でした。国を背負って戦うという初めての舞台にプレッシャーや緊張はありましたが、貴重な経験となりました。

本学ラグビー部では男子部員と一緒に練習し、試合に出場する際には、東京フェニックスという女子ラグビーのクラブチームで活動しています。ラグビーは激しくて危険を伴うス

とを、今でも鮮明に覚えています。

現在は男子10名、女子9名が在籍しており、青山学院記念館地下道場で週6日、2時間程度の短時間で集中して稽古に励んでいます。日々の稽古は体力面でも精神面でも鍛えられることばかりで、部員全員で一生涯懸命に、活動を続けています。気迫や集中力、スピードや力強さなどの魅力がある空手を学び、技術を身に付けるだけでなく、心身共に鍛えられるのが空手道部ならではの特色だと思います。また、生涯を通じてかけがえない仲間と出会えるところでもあります。今後も最優秀団体のような素晴らしい賞をいただけるよう各試合で優勝を目指し、また本学の学生として、人として成長できるように精一杯努力していきたいと思えます。今後とも空手道部の応援のほど、よろしくお願いたします。

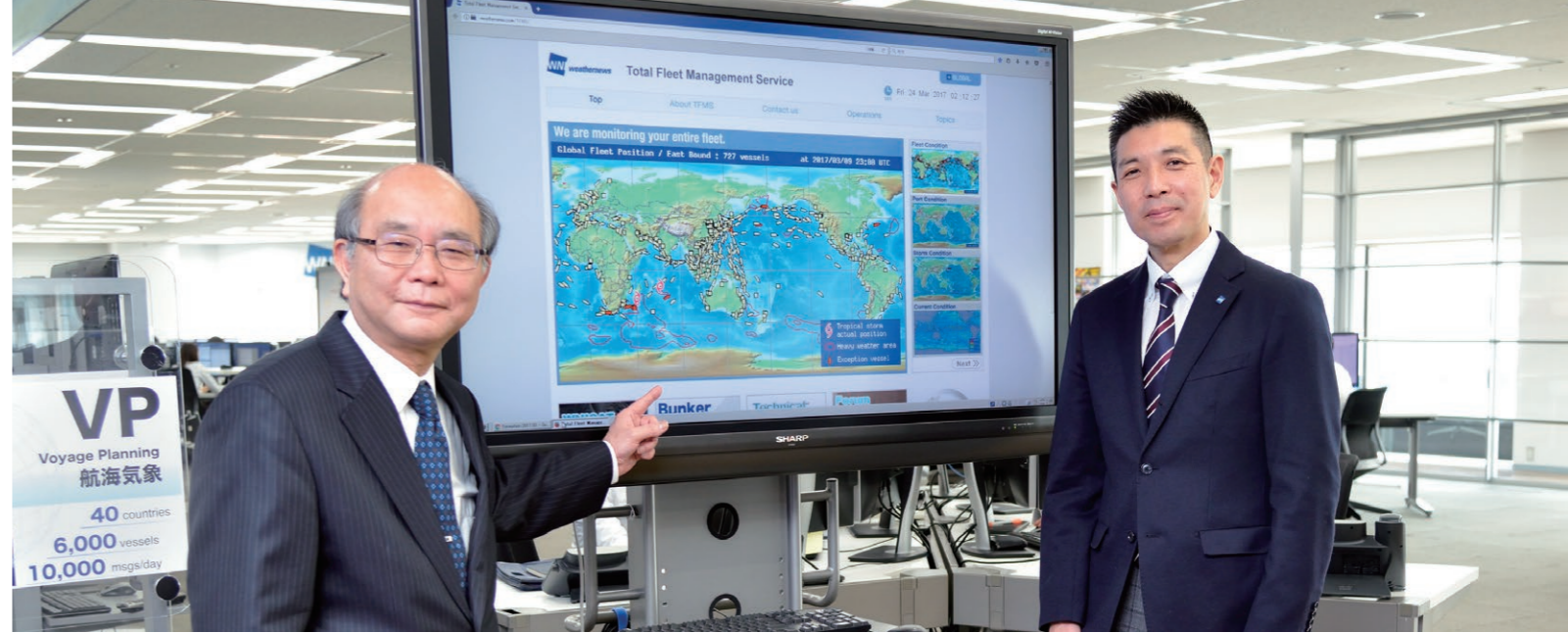


ポーツというイメージがあるかもしれませんが、私にとってはその激しさが楽しく、自分より身体能力の高い選手を相手にプレーするときは特にワクワクします。一方、ラグビーはとても頭を使うスポーツでもあるので、競技の中で素早く判断したり、人とコミュニケーションを取ったりする点が大変だと感じます。

この1年、日本代表と学生生活との両立は大変でしたが、何とか成し遂げることができました。それも大学の先生方や友人をはじめとする多くの方々の理解と協力があつたおかげです。当面の目標は、2017年8月にアイルランドにて開催されるワールドカップ本選で、スターティングメンバーとして出場し、ベスト8入りを目指すことです。女子ラグビー日本代表は4大会16年ぶりに、ワールドカップ本選に出場します。ぜひ、ご声援をよろしくお願いいたします。



女子ラグビーワールドカップ2017 アジア・オセアニア予選を1位で通過



卒業生
×
学長
対談

株式会社ウェザーニューズ
代表取締役社長

草開 千仁 氏

Chihito Kusabiraki

卒業生Profile

1965年、東京都生まれ。1987年3月、青山学院大学理工学部物理学科卒業、同年4月に株式会社ウェザーニューズ入社(第1期)。1993年に営業本部CSS事業部長、営業総本部航空事業部長に就任、1996年に防災・航空事業本部長、1999年8月に代表取締役副社長に就任。2006年9月より現職。

自分の手で新しい道を切り拓き、気象の世界へ

社会に出てさまざまな分野で活躍している本学の卒業生と三木義一学長との対談。今回のゲストは、株式会社ウェザーニューズ社長の草開千仁氏です。気象を職業にするまでの道のりなどを振り返りつつ、若き後輩たちへエールを送ります。

会社訪問した日に、社長面接

学長: 草開さんは昔から気象に関わる仕事に就きたいと思われていたのですか。
草開社長(以下敬称略): 小学生の頃からの夢でした。青学に進学したのも、数理科学を学べる数少ない大学の1つだったからです。とはいえ、4年生になると、周囲の内定先は電機メーカーばかりです。私はといえば、気象を扱う会社がほとんどない上、公務員向きではないと思っていたので気象庁も選択肢にありませんでした。なので「自分もメーカーに就職するのかなあ」と、夢を諦めかけていました。しかし研究室の薦田俊彌先生に相談する中で、やはり進みたい道は気象だと実感しました。薦田先生からは「自分で会社を探した方が良い。リクルート雑誌だけを見てい

ても駄目だ」とも言われました。そこでまず、気象にゆかりのある方に電話して、一般財団法人日本気象協会を教えてください、翌日早速訪ねました。そして協会ではオーシャンルーツという会社を教えてくださいだったので、その足で会社訪問したら、運良く石橋博良社長と話ができたくです。石橋さんは「明日から1カ月間ここでバイトしてみて、縁があると思ったら入れればいい」と。その会社が翌年ウェザーニューズを設立、私はその1期生として入社したのです。
学長: 自分の手で道を切り拓かれた。しかも当時はまだ無名の、小さな会社にトライしたというのはすごいことです。
草開: 最初は迷いもありましたが、薦田先生や周囲の助言もあり、やはり好きな気象の道へ進もうと決意できました。

求めるのは人の役に立てる人材

学長: 御社自体も気象という分野を、それまでとは違う観点で切り拓いた会社です。企業としての推進力を感じますね。私学も同じような目線に立ち、大学を切り拓いていかなければと思いました。

草開: 弊社は気象を扱う会社ですから、「皆が困っている今こそ自分がやるべき時だ」と思える人と一緒に働きたいと考えています。「いざというとき、人の役に立ちたい」というのは私の信念であり、会社の経営理念でもあります。
学長: 今の大学生はどう思われますか。
草開: 採用選考に同席して思うのは、新入社員の1/3は外国人採用ですが、やはりその方たちと比べて日本の学生は必死さが足りないと思います。また、自己管理ができていない人って、自己PRも上手なんですよ。なので、就職活動のときは自己管理も含め準備をしっかりすることをお勧めします。
学長: 最後に、本学の学生へエールを。
草開: 青学は国際政治経済学部や地球社会共生学部などがあるように、国際的に活躍できる人材を育てられる、数少ない大学の1つだと認識しています。日本企業が今後さらに、全世界を相手にビジネスを展開していくことは明らかです。皆さんには在学中にグローバルな力を身に付け、卒業後は多方面で活躍することを期待しています。

国際センターを設立します



国際交流センター所長
大芝 亮
国際政治経済学部 国際政治学科教授

今まで、国際交流センターは、留学支援や協定校の締結、教員・研究員の招へい等、教育の国際化を進めてきましたが、さらなる教育の国際化に加え、研究や広報の分野でも国際化を進めるため、新たに国際センターとしてスタートします。

国際センターの活動の主軸となるのは、やはり、まず教育の分野です。英語圏の大学との交流協定校を増やすと共に、ヨーロッパの英語プログラムがある大学との交流協定校を拡大していきます。同時に、短期サマープログラムなど多様なプログラムも設け、アジアの大学との連携もこれまで以上に強化します。留学生の受け入れについても、国際学生寮の整備や英語講義科目の増大など、より一層体制を整えていきます。

留学に関する奨学金制度も多彩ですが、2017年度からは「世界大学ランキングトップ100 (THE, QS)」の大学に留学する場合には、より高額な奨学金も支給されるようになりました。新たな取り組みとして、今後ダブルディグリー制度導入の方向に進めていく予定です。現在、

本学で3年、提携大学で1年学ぶと、双方の大学の学位が得られるダブルディグリー制度について交渉中です。

学内には語学力アップのための環境も整っています。例えばIELTS対策講座を実施しており、試験は通い慣れた青山キャンパスでも受けられます。さらにチャットルームでは留学生のチャットリーダーと英語、中国語、韓国語での会話や、コミュニケーションを通じて国際交流と同時に語学力のレベルアップも図れます。この他、本学が交流協定を結んでいる大学の先生を招いて特別講義を実施するレクチャーシリーズがスタートすれば、学生は日本にいながらして海外の生の講義を英語で聴く機会が得られます。このように学内にも多様なチャンスがあり、留学のためのさまざまなステップを踏んでいけるような体制になっているので、学生の皆さんにも大いに活用してもらいたいと思います。

研究面では、各学部でそれぞれに取り組んできたものを大学として体系的に強化し、研究交流協定を締結して海外の大学・研究機関と継続的な交流を図っていきます。広報面では、海外の方々を見ることを意識したウェブサイトの作成や、大学ランキング向上のための戦略を立てて取り組む予定です。また、今後は海外オフィスも充実させることで、海外の高校などでも本学のPRを強化する一方、日本からの留学生に対してもリスク管理などの面で、これまで以上にサポートを強化していきます。

本学初 公式LINEスタンプ発売

2016年12月、本学初の公式LINEスタンプ「青山学院大学公式スタンプ イーゴ君」が発売されました。このスタンプは地球社会共生学部連合 (GSC学生連合) の学生たちが「青学公式のLINEスタンプを作成して学生、保護者、校友、教職員の愛校心を高めるきっかけにしたい」という思いから、プロジェクトを立ち上げ作成しました。メンバーは、学生たちがよく使うスタンプ、あったら良いと思うスタンプを提案し、イーゴのポーズ画像を考えるなど、話し合いながら進めていきました。イラストをプロのデザイナーに依頼し、40種類のスタンプが完成。今後このスタンプの売り上げを利用した奨学金が設置される予定です。



LINEスタンプはこちら



NHK WORLD 「Kawaii International~Kawaii Summit in TOKYO~」の撮影・収録が行われました

NHKの国際版であるNHK WORLDが月2回放送している、「Kawaii International」というTV番組は、日本国内外のKawaii (カワイイ) 文化のトレンドを、英語で発信し、世界各国に放送しています。2017年2月24日 (金) 青山キャンパス17号館17309教室にて、番組の企画で今回初めて「Kawaii Summit」が開催されました。番組ではモデルのメロディー洋子さんとファッションジャーナリストのミーシャ・ジャ

ネットさんをMCに、現地でKawaii文化を広めているボリビア出身のカズミさん、米国出身のケーシーさん、英国出身のベッキーさんをゲストに迎え、本学の学生たちと「Kawaiiとは?」をテーマにトークや、ディスカッションも行われ、Kawaii文化を通して国際交流の輪が広がりました。また、この様子は2017年4月1日 (土) に放送され、6月末日まで、NHK WORLDのVOD (無料) でご覧いただけます。

日本のカワイイを世界に発信!
NHK WORLD「Kawaii International」は、アプリとPC・スマホからご覧いただけます。
VOD→ <https://www.nhk.or.jp/nhkworld/en/vod/kawaii-i/>
視聴方法等詳細はHPで→ <http://www.nhk.or.jp/kawaii-i/>



番組MCやゲストの皆さんと本学の学生たち

「スポーツネットワーク中学生セミナー」開催報告

2017年3月4日 (土) に相模原キャンパスA棟アリーナにおいて「スポーツネットワーク中学生セミナー」(主催: 相模原市教育委員会



主管: 相模原市体育協会) が開催されました。このセミナーは、地域連携やスポーツ振興を図り、相模原市内の中学生の競技力向上を目的としており、今年で12回目を迎えました。当日は相模原市内在学の中学生約100名を対象に、本学男子バスケットボール部ならびに女子バレーボール部の監督、コーチ、選手が各々の競技レベルに合わせた実践的な指導を行いました。参加した中学生には大学リーグトップレベルの実力を持つ本学学生から直接指導を受けた経験を、今後の競技活動へぜひ生かしてほしいと期待しています。

河津町と連携協定を締結

2017年2月28日 (火)、本学と静岡県賀茂郡河津町は、教育や文化、まちづくりなどの分野で連携する協定を締結しました。日本に「母の日」を広めたのは本学院に関わった3名のアメリカ人女性宣教師でした。このことが縁で、カーネーションの栽培が盛んな河津町を渋谷区から紹介され、連携協定について同町と協議を重ねました。

相馬宏行町長は「少子高齢化と人口減少が進む中、今後のまちづくりは大きな課題。地域の社会づくり、人材育成に協力して取り組みた

い」、三木義一学長は「地域とのつながりを大切に、一体となって若者を育てていきたい」と述べました。今後本学は河津町の英語教育を支援する等交流事業を進めていきます。



相馬町長 (左) と三木学長

「青学発『母の日』を盛り上げよう!」開催報告

日本やアメリカでは5月の第2日曜日を「母の日」としていますが、この「母の日」を初めて日本に紹介し、定着させたのは、明治から昭和初期に青山学院に関わった3名の女性宣教師でした。そこで本学では、2017年5月14日 (日) の「母の日」の約1カ月前から、学内の各所で「母の日」にちなんだ企画を実施しました。

まず、株式会社日比谷花壇と総合文化政策学部の授業「ラボ・アトリ工実習 (懸田豊名誉教授)」との連携で、フォトスポットを青山キャンパス17号館1階エントランスに設置しました。また、3つのテーマで募集した「母の日」にちなんだ学生作成のポスターの掲出、両キャンパスの

構内街灯に「青学発『母の日』」をコンセプトにした街灯フラッグの掲出等を行いました。

さらに、「母の日」翌日の5月15日 (月) には、カーネーションの産地であり連携協定を締結した河津町と本学との協働により、初等部1年生がカーネーションを摘み、プレゼントを作る企画も行われました。また、株式会社日比谷花壇の後援により幼稚園児一人一人にもカーネーションが届けられ、学内の各所を「母の日」色に染めていきました。



シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー (S-SAP) 協定を締結

2017年3月23日 (木)、本学は渋谷区と、民間企業や大学等の持つ技術やノウハウを活用し、協働して地域社会の課題解決を目指す「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー (S-SAP) 協定」を締結しました。

長谷部健渋谷区長は「この協定を大学と締結するのは初めてのことで。教育機関、研究機関である大学ならではの専門性を活かし、お互いのリソースを掛け合わせて、新たな区民サービスを提供していきたい」、三木義一学長は「長谷部区長の、渋谷をロンドン、パリ、ニューヨーク、渋谷区と言われるような世界の渋谷にしたいという考

えに感銘を受けました。連携をより一層強めることで、本学は世界でも知名度の高い大学となるよう発展していきたい」と話しました。

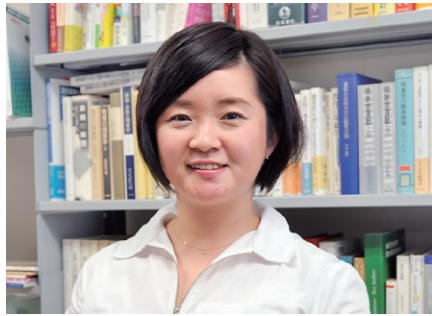
これまで、災害時の帰宅困難者支援 (受け入れ) 施設としての協力の他、知的障害者への支援や地域清掃のボランティア活動などの協力をしてきました。連携をさらに強化し、まちづくりや教育など、さまざまな分野における課題解決に協働して取り組んでいきます。



長谷部区長 (左) と三木学長



AGU Lecture 084



子どもや若者の学び、人間関係、成長について 現実に基づき考える

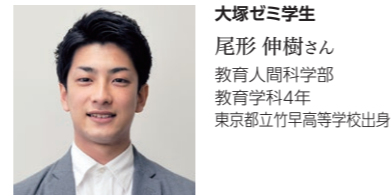
大塚 類
教育人間科学部 教育学科准教授

子どもの体験と教育実践を理解するための視点や感覚を育むことを目的に、本ゼミナール(ゼミ)では学生のプレゼンテーション(プレゼン)を中心に行う他、夏休みを利用したフィールドワークなどを実施しています。プレゼンのテーマは自由です。ゼミでは「あたりまえを疑え」ということを基本テーマとしています。例えば、「いじめ」に関する議論であれば、「いじめが良くないことはあたりまえだ」とする前提の考え方を覆して、皆が突き詰めて語る場にしたいと思っています。担当者が30分ほどかけて発表した後、そのテーマについて全員で議論します。議論をふまえて、次のゼミまでに、全員がA4サイズ一枚のレポートを提出し、それに私がコメントを付けたものを全員に配布します。こうすることによって、「ただ議論して終わり」ではなく、議論の中で得た新たな学びを定着させるよう工夫をしています。オープンであることを心がけているため、こうしてレポートも全員に配りますし、私自身も自分の考えをできるだけ自由に話すようにしています。また、ゼミはお昼休み前の2限に行われるので、そのまま教室で全員一緒に昼食を取りながら、議論の続きをしたり雑談をしたりすることも珍しくありません。

フィールドワークは、昨年までは、山口県の離島にある児童養護施設のための小・中学校に行っていました。そこで学んだことを、学生たちは事例研究として論文にしました。私が他大学の先生と共同研究として行っているため、このフィールドワークは他大学のゼミと交流する機会でもあります。この経験から学生たちが学ぶことは非常に多く、実際に子どもたちと関わることで、学生各自の新たな面も見えます。

毎年のゼミ選考では課題を出しており、必然的に熱意のある学生たちが集まってくれているため、毎週のゼミも、夏休みのフィールドワークも、活発なものになっています。彼らが社会に出たときに困らないよう、大学で学ぶ間に身に付けてほしい最低限のマナーや文章の書き方も指導するようにしています。

「教育」について学ぶ上で大切なことは、正論にとらわれずに問い直すことだと思います。本学科には入学時から「学校の先生になる」と進路を決めている学生が多くいますが、せっかく大学で「教育」を学ぶのですから、本当に自分が教育者に向くのかと、座学と実践によるさまざまな学びを通してとらえ直すことも大事なことだと思います。



大塚ゼミ学生
尾形 伸樹さん
教育人間科学部
教育学科4年
東京都立竹早高等学校出身

ゼミを選ぶ時点では、まだ研究したいことが固まっていなかったため、特定のテーマに限定されずに幅広く学べる大塚ゼミに魅力を感じました。もともと議論が好きだったので、議論・対話がメインという点にも惹かれました。ゼミ生はみんなゼミへの思いが熱く、仲の良さも教育学科一と自負しています。また、卒業生から以前のゼミの話や現在の仕事の話などを聞く機会もあるなど、卒業生とのつながりが強いのもゼミの特色です。議論を通してさまざまな考えに触れたり、新たな知見を得たりと、多くの刺激を受けます。大塚先生が言われた「教育の暴力性」という言葉も非常に印象深く、これまでの「教育=善」という固定観念が覆され、再構築する機会となりました。今後は、教員免許を取得予定ですが、卒業後は一旦民間企業に就職し、将来的にはキャリア教育コーディネーター*を目指しています。ずっと教師になることを目指していましたが、ゼミでの学びを経てこの進路にたどり着きました。

新たな考えや意見に接したとき、それを柔軟に受け入れて自分自身の固定観念を覆せる人や、好奇心旺盛な人に、大塚ゼミをぜひお勧めします。

*地域社会が持つ教育資源と学校を結び付け、児童・生徒等の多様な能力を活用する「場」を提供することを通じ、キャリア教育の支援を行うプロフェッショナル

Information

2017年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介



学長
三木 義一
■専門分野：税法
■任 期：2015年12月～2019年12月



経済学部長・経済学研究科長
中村 まづる
■専門分野：経済政策
■任 期：2016年4月～2018年3月



副学長(学務担当)
篠原 進
■専門分野：近世文学、浮世草子研究
■任 期：2015年12月～2017年12月



法学部長・法学研究科長
大石 泰彦
■専門分野：メディア法、メディア倫理
■任 期：2016年4月～2018年3月



副学長(学生担当)
外岡 尚美
■専門分野：アメリカ演劇
■任 期：2016年6月～2017年12月



経営学部長・経営学研究科長
三村 優美子
■専門分野：マーケティング、流通
■任 期：2016年4月～2018年3月



副学長(青山キャンパス総務・財務担当)
田中 正郎
■専門分野：流通マーケティング
■任 期：2015年12月～2017年12月



国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長
内田 達也
■専門分野：応用ミクロ経済学
■任 期：2016年4月～2018年3月



副学長(相模原キャンパス総務・財務担当)
理工学部長・理工学研究科長
橋本 修
■専門分野：生体・環境電磁工学
■任 期：(副学長)
2016年6月～2017年12月
(理工学部長・理工学研究科長)
2017年4月～2018年3月



総合文化政策学部長・総合文化政策学研究科長
堀内 正博
■専門分野：マネジメント論
■任 期：2016年4月～2018年3月



副学長(国際・広報担当)
押村 高
■専門分野：政治学、国際関係論
■任 期：2015年12月～2017年12月



社会情報学部長・社会情報学研究科長
稲積 宏誠
■専門分野：情報理論、人工知能、機械学習
■任 期：2016年4月～2018年3月



文学部長・文学研究科長
阪本 浩
■専門分野：古代ローマ史
■任 期：2016年4月～2018年3月



地球社会共生学部長
平澤 典男
■専門分野：公共経済学
■任 期：2017年4月～2019年3月



教育人間科学部長・教育人間科学研究科長
小田 光宏
■専門分野：図書館情報学
■任 期：2017年4月～2019年3月



国際マネジメント研究科長
岩井 千明
■専門分野：ビジネスゲーミングシミュレーション、データベースマーケティング
■任 期：2017年4月～2019年3月



法務研究科長
後藤 昭
■専門分野：刑事法学
■任 期：2016年4月～2018年3月



会計プロフェッション研究科長
小西 範幸
■専門分野：会計学
■任 期：2017年4月～2019年3月

2017年度 保証人の方対象説明会について

キャンパス見学会

新入生の保証人の方を対象としてキャンパス見学会を実施します。
青山キャンパス…6月17日(土)午後(相模原キャンパスは5月27日(土)に実施しました)

学業説明会・就職説明会

首都圏にお住まいの保証人の方を対象に5~6月の土曜日に実施します。

ペアレンツウィークエンド(地区父母懇談会)

首都圏以外にお住まいの保証人の方を対象として、大学教職員が全国の拠点都市に伺って大学の近況をお伝えします。開催日程は表の通りです。

地区	開催日	開催場所	地区	開催日	開催場所
宮崎	6月4日(日)午前	ホテルスカイタワー	神戸	7月9日(日)午前	ANAクラウンプラザホテル神戸
静岡	6月11日(日)午後	ホテルアソシア静岡	山口	7月9日(日)午前	山口グランドホテル
富山	6月11日(日)午後	ANAクラウンプラザホテル富山	宇都宮	7月16日(日)午後	宇都宮東武ホテルグランデ
高崎	6月18日(日)午後	ホテルメトロポリタン高崎	仙台	7月17日(月・祝)午後	ホテルメトロポリタン仙台
福島	6月18日(日)午後	ホテル福島グリーンパレス	名古屋	7月17日(月・祝)午後	名鉄ニューグランドホテル
秋田	6月25日(日)午前	秋田キャッスルホテル	京都	7月22日(土)午後	ホテルグランヴィア京都
甲府	6月25日(日)午後	常盤ホテル	広島	7月23日(日)午前	ホテルグランヴィア広島
福岡	7月1日(土)午前	ソラリア西鉄ホテル	札幌	7月29日(土)午前	ニューオータニイン札幌
熊本	7月2日(日)午前	ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ	徳島	7月29日(土)午前	JRホテルクレメント徳島



対象の方に5月上旬に郵送した専用のハガキまたは本学ウェブサイトにてお申し込みください。問い合わせ先 庶務部庶務課 TEL : 03-3409-8568
実施詳細の最新情報は本学ウェブサイトでご確認ください。

2016年度 学位授与式(卒業式)

2017年3月25日(土)、青山学院記念館において学部の学位授与式が挙行され、約4,000名が門出を迎えました。梅津順一院長の式辞、三木義一学長の告辞に引き続き、相川和宏校友会会長から祝辞を賜りました。壇上では各学部の総代に学位が授与され、答辞が朗読されました。



大学院の学位授与式は青山学院講堂にて行われ、各研究科の総代と博士に学位が授与され、答辞が朗読されました。

同日ガウチャー記念礼拝堂では午前と午後それぞれ伊藤悟大学宗教部長と、シェロ マイク大学宗教主任による卒業礼拝も行われました。

2017年度 入学式

2017年4月1日(土)青山学院記念館において、学部・大学院合同の入学式が午前、午後の2回に分けて挙行されました。学生団体による合唱『ハレルヤ』の後、梅津順一院長の式辞、三木義一学長の告辞、後援会会長の小山重久様からは祝辞を賜りました。式典終了後はアナウンス研究会の司会進行のもと、応援団と吹奏楽パトントワリング部の協力でカレッジソングの歌唱指導も行われ、プログラムは終了しました。



青山学院購買会 セブン-イレブンも加わってリニューアルオープン

2017年3月24日(金)に、オープン前から学生の間で非常に話題になっていたコンビニ、「セブン-イレブン 大学1号館店」が、青山キャンパスにオープンしました。3月22日(水)には、相模原キャンパスに相模原店が先行オープンし、好評を得ています。

セブン-イレブンでは食料品を販売し、購買会ショップでは、文房具、衣料品、オリジナルグッズや書籍を取り扱っています。セブン-イ

レブンの店内は、食品のラインナップが大幅に充実し、工夫が施された陳列など、買い物しやすくなっています。また、コンビニ最大手のノウハウを生かした、セブンカフェや各種公共料金の代行収納、電子マネーの使用、またATM、FAX、コピー利用など、コンビニ特有のサービスも魅力です。



大学学費後期納付のご案内

学部

※大学院の学費納付は大学院要覧参照

【納付期限】2017年10月2日(月)

2016年度以前入学者…4月中旬に発送した学費振込依頼書の後期分をご利用ください。
2017年度入学者…7月19日(水)に後期分の学費振込依頼書を送付予定です(後期分学費未納付者)。

青山学院大学教育振興資金

保証人の皆さまのご支援を教育研究環境の改善につなげます。

日頃より本学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2016年度募集いたしました「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。今号では2016年9月11日以降にご寄付いただきました皆さま方を掲載の対象としております。

2016年度は学内の教育研究環境をさらに充実させるため、青山・相模原

両キャンパスにICT対応のラーニングcommonsを設置すると共に、図書館の備品をリニューアルし、利用環境を整備しました。また、進路・就職センターでは、学生が納得できる進路選択・就職活動を行えるよう就職支援システム「Web Ash(ウェブアッシュ)」のリニューアルに取り組んでいます。さらに、青山キャンパスにボランティアセンターを開設し、2018年以降相模原キャンパスにも設置する予定です。この場をお借りして御礼申し上げますと共に、ご寄付くださった皆さま方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 401名 (ご芳名掲載者 125名 匿名者 276名)

ご芳名掲載対象期間
2016年9月11日から2017年3月31日までのご寄付者

あ	青木 寛様	氏部 浩之様	小泉 邦明様	た	高橋 慎一様	中村 勉様	本多 晃様
	秋山 清美様	鵜野 徳文様	小亀 重喜様		高橋 俊典様	灘波 猛様	前田 みどり様
	浅香 均様	お 岡本 一志様	小柴 卓人様	に	高橋 年也様	西野 晃司様	馬嶋 祐子様
	姉帯 次男様	小倉 正様	後藤 専様		高橋 美仁様	西山 勝己様	松澤 重司様
	天野 邦彦様	小田井 恒昭様	小林 隆信様	は	武田 正己様	泊瀬川 典子様	松本 厚様
	荒川 秀雄様	小沼 隆夫様	小淵 康洋様		竹村 雅裕様	浜田 高宏様	道下 芳紀様
	有松 靖弘様	小野 博史様	小牧 健治様		竹邑 義和様	濱野 多喜生様	宮崎 雄美様
	安藤 修様	か 鹿毛田 宣彦様	さ 三枝 洋様		田中 豊樹様	林 俊介様	宮崎 伸行様
い	飯島 忠弘様	加藤 敦広様	酒井 優様		田中 秀樹様	林 則光様	向田 真一様
	飯田 和信様	金子 敬子様	貞光 隆徳様		田中 義則様	原田 緑様	室井 敏枝様
	市丸 栄治様	金子 良平様	佐藤 和子様		田村 和久様	半田 繁様	本井 浩二様
	伊藤 満昭様	蒲谷 修様	佐藤 博様	ち	千葉 純司様	平野 裕子様	森 邦晴様
	稲見 雄二様	亀山 正博様	志賀 永基様	つ	津田 不二夫様	福田 澄幸様	柳沼 芳裕様
	井上 俊朗様	菅野 涉様	七里 和哉様		土屋 富久様	福谷 歳之様	山田 弘行様
	井畑 譲治様	き 菊池 昭人様	宿谷 肇様		恒吉 誠様	福永 健二様	山本 敬子様
	岩崎 賢治様	木下 宏臣様	菅沼 雅文様	す	鶴田 三紀夫様	福原 悦子様	よ 横地 眞様
	岩坪 清子様	木村 裕純様	鈴木 幸恵様		手塚 則之様	藤井 武様	横山 浩之様
う	上江洲 初絵様	桐木 博之様	須永 毅様	と	徳永 淳様	藤野 信博様	吉村 俊様
	上野 公也様	く 桑原 章様	関 勝廣様		富田 秀昭様	藤本 忠幸様	湧川 温子様
	上原 重樹様	こ 小池 一正様	関口 正徳様	な	長澤 政秀様	星野 法昭様	渡邊 務様
	ウォーリー 奈津子様	こ 小池 正道様	関根 美保子様		長嶋 義和様	堀田 二郎様	(五十音順)

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングを利用してご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、庶務部経理課までお知らせください。次回掲載させていただきます)。

問い合わせ先 庶務部経理課 E-mail : agu_supporters@aoyamagakuin.jp

2017年度 Thank Youプログラム

このプログラムは、2016年度にご寄付いただきました保証人の方々へ2017年度入学しご寄付いただきました保証人の方々へ、感謝の気持ちを込め、開催させていただきます。

- 5月 前期公開講座(全10回) ご招待/パッパ・コレギウム・ジャパンコンサート ご招待
- 6月 感謝の集い(昼食会：青山キャンパスにて全員) ペアレンツウィークエンド(地区父母懇談会)開始
- 9月 後期公開講座(全10回) ご招待
- 12月 クリスマス・ツリー点火祭(自由参加)/大学礼拝堂オルガンコンサート ご招待
学長主催による感謝の集い(夕食会：青山キャンパスにて 2016年度40以上の方を対象)



20以上の方に腕時計を贈呈

ソーシャルメディア利用にあたって

上手にソーシャルメディアを利用しましょう

- 一人一人の個性や多様性を尊重し、互いに認め合うことを心がけましょう。
- 正確な情報の利用を心がけ、虚偽や不確かな情報を発信しないように注意しましょう。
- 本人の許可なく他人の個人名や写真を掲載してはいけません。自分自身の個人情報も、利用するサービス内容を十分に検討し行ってください。
- ソーシャルメディアは国境を越えます。日本の法律のみならず、国際的なルールを守る必要があります。
- 本学学生であることを明らかにしてソーシャルメディアを使うことは、大学の一員としての責任を負うこととなります。そのことを自覚しましょう。

本学は皆さんの個人の責任において行う自由な言語活動・コミュニケーション活動を尊重し、促進していきたいと考えています。

インターネット上での、不特定多数のユーザーがコミュニケーションできるソーシャルメディアの活用は、さまざまな価値・可能性を生み出します。良いコミュニケーションを図るためにも上手に使用してください。

ネット上でのトラブルが発生した場合、またはその恐れがある場合は下記窓口にご相談ください。

学生生活課 青山キャンパス TEL : 03-3409-7835
相模原キャンパス TEL : 042-759-6004



青山学院スカラシップ

～次代のサーバント・リーダーのために～



青山学院では、学生の皆さんが経済的理由から学業を断念せず、充実した学生生活を送ることができるよう、給付型奨学金の充実に努めています。2016年度は68の冠奨学金を設け、378名の学生に給付することができました。本年度はさらに多くの校友・保証人・教職員・篤志家の皆さまからの80件の冠奨学金により、約400名の学生に給付できる予定です。奨学金のためにご寄付を下さった方からのメッセージと、奨学金を受給した学生の声を、一部ご紹介します。青山学院スカラシップの意義を多くの皆さまがご理解くだされば幸いです。

〈寄付者からのメッセージ〉

若いということは本当に素晴らしいことです。それは、希望が無限に広がるから。何事にもチャレンジできるから。失敗を恐れず頑張れるから。この学舎で、一日一日を大切に充実した学生生活を送ってください。私のささやかな奨学金が少しでもお役に立てるならこんなに嬉しいことはありません。(Michiko奨学金)

あなたも私も、共に青山ファミリーの一員です。あなたを応援できることは、私の大きな喜びです。どうか、学生生活を満喫され、その学びが実り、豊かなものとなりますように。「地の塩、世の光」を心に覚え、いつの日か、あなたも、後輩を、そして青山学院を支える一人になってください。(相川奨学金)

私は「夢」を持つこと、毎日「夢」を確認することの大切さを感じています。限られた学生時代を「夢」の確認と実現に向けてください。結果として皆さんが、新たな文化・産業と多くの方の「笑顔」「感動」を創造し、社会と人々に貢献する「世の光」となっていれば幸いです。(夢手帳奨学金)

母校への恩返しと未来を担う若者のためとなる機会をいただき、本当に嬉しく思います。感謝の気持ちを込めて、母校で学ぶ学生たちが学業を断念することなく希望を持ち続けていられますように、ささやかながら協力させていただきま。青山学院を巣立ち、社会に貢献することができるように、自分のなすべきことを行い、感謝の心を育て、大きく成長していきましょう。(さくら奨学金)

〈奨学金受給学生の声〉

奨学金を受けて自分が大学に通えているのは、多くの方々の助けのおかげだと感じたので、自分も人を助ける活動をしたと思い、アルバイト先の方々とスリランカに井戸を作る活動を始めました。今後も、奨学金の恩返しとして社会に奉仕できる人になれるようにさまざまなことに挑戦し、一生懸命取り組んでいきます。(経営学部3年)

「まだ自分には、目を向けて、支え、応援して下さる方がいるのだ」ということに気づくことができ、だからこそより一層頑張っていかなければ、と自らを奮起させるきっかけにすることができました。(教育人間科学部3年)

奨学金によって経済的不安が払拭されて、心の安心にもつながり、就職活動も集中して行うことができました。寄付者の皆さまに恩返しできるように、私のように経済不安を抱えている方々を支援できる立派な社会人になりたいと思います。(文学部4年)

私の学びたいこと、深めたいこと、挑戦していきたいことが段々と明確になり、自分の人生に希望を見いだせるようになったことが、この奨学金によって得た一番大切なものだと思っています。(総合文化政策学部3年)

アルバイトへ費やす時間を減らすことができ、精神的にも安心を覚え、不安な気持ちが少し軽くなりました。勉学に対する意識も高まり、前向きな気持ちで取り組むことができています。(経済学部2年)

資料請求
問い合わせ先

青山学院エバークリーン募金推進本部
TEL : 0120-900-420(フリーアクセス) FAX : 03-3409-3890
E-mail : bokin@aoyamagakuin.jp
<http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html>

≫インターネットからのご寄付も可能です。

青山学院 募金

検索



Club & Circle 35 白馬ヒュッテ運営委員会

学生主体でペンションの管理、運営を経験できます。

私たち白馬ヒュッテ運営委員会は、青学が長野県白馬村に所有しているペンション「白馬ヒュッテ」の管理と運営を学生主体で行っている、50年以上の伝統がある団体です。

ペンションを春季、夏季、冬季の長期休みに、それぞれ約1カ月間開設し、利用者の受け入れを行っています。多いときには80名以上の方がペンションを訪れることもあります。学生間だけでなく、利用者の方との交流も盛んで一緒にバーベキューや天体観測、花火をすることもあります。一組一組の利用者の方との交流は短い期間ですが、一度来てくださった利用者の方が、別の機会にもう一度来てくださったことが今までで一番心に残っています。学生主体でペンションの管理、運営を行うことは、他団体ではできない貴重な経験です。広報活動や維持、会計、食事の準備、お客様への対応などを分担して行っています。

ペンションは山の中にあり夏は緑にあふれ、冬は一面雪景色が広がります。徒歩2分の場所にスキー場もある好立地で、スキーやスノーボードも楽しめます。興味がある方はぜひ、「白馬ヒュッテ」にお越しください。(2016年度 委員長：総合文化政策学部 総合文化政策学科4年 恩田 祥太郎 記)



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

- バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**



発行元：青山学院大学 政策・企画部
TEL : 03-3409-8159

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2017青山学院大学

●2017年5月31日発行●